

■ 農作物の生育状況と今後の対策等（7月）

令和7年7月18日
青森県三八農林水産事務所
農業普及振興室

I 土地利用型作物

1 水稲

(1) 生育の状況

① まっしぐら

6月30日時点の管内の生育は、草丈は平年を上回り、葉数は平年並み、茎数は平年を下回った。県生育観測ほの幼穂形成期は、八戸市市川で平年より9日早い7月2日、五戸町根前で平年より10日早い6月30日であった。

② はれわたり

6月30日時点の管内の生育は、草丈は前年を上回り、茎数、葉数は前年を下回った。はれわたり指導拠点ほ（南部町苫米地）の幼穂形成期は前年より2日早い7月5日であった。

表1 水稲生育観測ほ生育状況（6月30日）

| 品種 | 年次 | 草丈 (cm) | 茎数 (本/株) | m ² 茎数 (本/m ²) | 葉数 (枚) | 幼穂形成期 (月日) |
|------------------|----|------------|-------------|--|-----------|---------------|
| まっしぐら (8地点平均) | 本年 | 60.9 | 19.9 | 399 | 9.0 | 7月4日 |
| | 平年 | 51.0 | 21.1 | 442 | 8.9 | 7月11日 |
| はれわたり (5地点平均) | 本年 | 63.0 | 17.0 | 346 | 9.1 | 7月3日 |
| | 前年 | 56.4 | 23.6 | 446 | 9.3 | 7月5日 |

※はれわたりは調査年数が少ないため平年値なし

(2) 今後の対策・指導等

- ①最低気温が17℃以下になると予想される場合には、深水管理を徹底する。
- ②出穂後に気温が高い日が続く場合は、飽水管理や水の入れ換えを行う。
- ③稲こうじ病、いもち病等の適期防除。カメムシ対策として出穂7日前までに水田周囲の草刈りを終える。
- ④農作業履歴を記帳する。

2 大豆

(1) 生育の状況

7月10日の生育調査は、八戸市市川、五戸町倉石中市ともに草丈は平年より高く、葉数は平年より多かった。

スズメノテッポウやツユクサ等の雑草が散見される。

表2 大豆生育観測ほ生育状況（7月10日）

| 調査地点 | 年次 | 播種日 (月日) | 草丈 (cm) | 葉数 (葉) |
|-------------|-----|-------------|------------|-----------|
| 八戸市 市川 | 本年 | 6月6日 | 46.2 | 6.8 |
| | 平年* | 5月30日 | 33.8 | 4.6 |
| 五戸町 倉石中市 | 本年 | 6月10日 | 38.1 | 5.3 |
| | 平年* | 6月10日 | 32.0 | 4.0 |

※平年値は平成25年～令和6年の平均値

(2) 今後の対策・指導等

- ①湿害により生育不良となることから、明きょ等の排水対策を行う。
- ②適期に雑草及び病虫害防除を行う。
- ③中耕・培土を適期に行う。

II 野菜

1 ながいも

(1) 生育の状況

萌芽揃いは平年より 11 日遅い 6 月 23 日、つるのネット頂上への到達日は、平年より 3 日遅い 7 月 10 日であった。

地下部の生育は、いも長及びいも重が平年比 84%と平年を下回り、いも径が平年比 112%と平年を上回っている。

病害の発生は見られなかった。害虫は、ナガイモコガの食害やカメムシ類による葉の吸汁害が散見される。

表3 ながいも生育観測ほ生育状況（7月10日）

| 年 度 | 定 植 期 | | | | | | つるの ネット頂 到達日 | 7月10日現在 (本年調査日:7月10日) | | |
|--------------|-----------------|------------|--------------|--------------|--------------|----------------|--------------------|--------------------------|------------|-------------|
| | 植付 期 (月日) | 種いも の種類 | 萌 芽 | | | 欠株 率 (%) | | いも長 (cm) | いも重 (g) | いも径 (mm) |
| | | | 始 め (月日) | 期 (月日) | 揃い (月日) | | | | | |
| 本 年 (平年比) | 5/14 遅8日 | ガンク欠 | 6/18 遅12日 | 6/20 遅11日 | 6/23 遅11日 | 0 | 7/10 遅3日 | 14.3 84% | 6.6 84% | 9.1 112% |
| 平 年 | 5/6 | ガンク欠 | 6/6 | 6/9 | 6/12 | 0 | 7/7 | 17.0 | 7.9 | 8.1 |
| 前 年 | 5/20 | ガンク欠 | 6/20 | 6/22 | 6/24 | 0 | 7/12 | 11.2 | 3.0 | 6.9 |

※栽植様式：畝幅 120cm、株間 22cm (3,787 株/10a)

※種子の系統：庄司、使用種子の種類・重さ：2年子・120～150g

※平年値は平成 27 年 ～ 令和 6 年の平均値

(2) 今後の対策・指導等

- ①近年、降雨が多い状況が続いているので、排水対策を徹底する。
- ②1 回目の追肥時期を迎えているので、遅れないよう追肥を実施する。
- ③アブラムシ類、ナガイモコガ、葉渋病、炭疽病の発生に注意し、予防防除に努める。

2 ねぎ

(1) 生育の状況

草丈は平年比 96%で平年を下回っているものの、茎径は平年比 101%と平年並となっている。収穫はほぼ平年並と見込まれる（平年 7 月 15 日）。

病害虫は、葉枯病、ネギコガ、アザミウマ類、ハモグリバエ類の食害が散見されるが、発生量は少ない。

表4 ねぎ生育観測ほ生育状況（7月10日）

| 年 度 | 定 植 期 | | | | | 7月10日現在 | |
|-------|-------|-------|----------|------|----------|---------|------|
| | 品 種 名 | は種期 | 育苗 状況 | 定植期 | 活着 状況 | 草丈 | 茎径 |
| | | (月日) | | (月日) | | (cm) | (mm) |
| 本 年 | 夏扇パワー | 1/5 | 良 | 4/1 | 良 | 94.9 | 22.3 |
| (平年比) | | 遅17日 | | 遅9日 | | 96% | 101% |
| 平 年 | 夏扇パワー | 12/19 | — | 3/23 | — | 99.0 | 22.1 |
| 前 年 | 夏扇パワー | 12/25 | 良 | 4/4 | 良 | 83.0 | 25.5 |

※平年値は平成27年～令和6年の平均値

(2) 今後の対策・指導等

- ①近年、夏場の集中豪雨が増加傾向にあるので、排水対策を徹底する。
- ②収穫予定日を考慮し最終培土を実施する。また、培土はなるべく高温の時間帯を避け、早朝に実施する。
- ③収穫前日数を確認し、さび病、べと病、ネギコガ、アザミウマ類、ハモグリバエ類等の病虫害防除を徹底する。

3 にんにく

(1) 生育の状況

収穫期は平年より2日遅い6月23日であった。収穫時の茎葉重は98.5g（平年比109%）、球径は65.1mm（平年比101%）、生球重が101.8g（平年比101%）で平年並であった。

表5 にんにく生育観測ほ収穫期調査結果（6月23日）

| 年次 | 収穫時期 (月日) | 茎葉重 (g) | 球径 (mm) | 生球重 (g) |
|-------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|
| 本年 (平年比) | 6月23日 (2日遅) | 98.5 (109%) | 65.1 (101%) | 101.8 (101%) |
| 平年 | 6月21日 | 90.4 | 64.8 | 100.4 |
| 前年 | 6月18日 | 73.6 | 67.8 | 114.8 |

※種子の系統：「白玉王」、種子りん片重量：10～12g

※栽植様式：うね幅 160cm、株間 15cm（16,667株/10a）、緑マルチ（植付機使用）

※平年値は平成27年～令和6年の平均値（但し、黒マルチを使用した令和2年を除く）

(2) 今後の対策・指導等

- ①乾燥時の温度、送風量を適切に管理するとともに、乾燥施設の給気口と排気口を乾燥終了まで常時開放して、煮えやムレ等による品質低下に注意する。また、乾燥の仕上がりは盤茎部の水分や重量の減量率などを確認しながら判断し、過乾燥にならないように注意する。
- ②乾燥終了後は、種子と出荷品と離して、直射日光が当たらず風通しの良い涼しい場所で保管する。

4 トマト

(1) 生育の状況

生育観測ほの生育は、5段花房の開花が6月27日で、平年より6日早く、現在6～7段目が開花中である。

収穫始めは、平年より3日早い7月7日から始まった。

6月第2半旬以降の高温により、3～4段花房で尻腐れ果、4～6段花房で落花が見られる。

病害は灰色かび病の発生が見られ、虫害の発生は見られていない。

一般ほ場の生育は、概ね順調とみられるが、高温の影響により、尻腐れ果や落花が散見されている。病虫害は、灰色かび病の発生や、アザミウマ類による果実被害が見られるほか、トマトキバガの発生が散見される。

表6 トマト生育観測ほ生育状況（7月10日）

| 年度 | 定植時 | | | 着果状況 | | | | | |
|-------------|----------------|-------------|-----------------|-------------|------------|-------------|------------|-------------|-------------|
| | 品種名 | 定植期 (月日) | 育苗・ 活着 状況 | 1段花房 | | 3段花房 | | 5段花房 | |
| | | | | 開花期 (月日) | 着果数 (個) | 開花期 (月日) | 着果数 (個) | 開花期 (月日) | 着果数 (個) |
| 本年 (平年比) | りんか409 (自根) | 5/12 1日遅 | 良好 | 5/29 3日遅 | 3.8 93% | 6/15 1日早 | 3.2 94% | 6/27 6日早 | 2.6 104% |
| 平年 | りんか409 | 5/11 | | 5/26 | 3.4 | 6/16 | 3.4 | 7/3 | 2.5 |
| 前年 | りんか409 | 5/5 | 良好 | 5/21 | 3.1 | 6/12 | 3.1 | 6/27 | 3.5 |

※栽植様式：畦幅 200cm、株間 40cm、条間 70cm、2条 (1,960株/10a)、黒マルチ

※平年値は平成27年～令和6年の10か年の平均値

(2) 今後の対策・指導等

- ①着果数は、草勢に合わせて1花房あたり3～4果程度に調整し、生育・天候に応じたかん水・追肥を行って、草勢の低下を防ぐ。
- ②高温対策として、日中の暑い時間帯は遮光資材でハウスを覆い、好天が続く予報の場合には屋根部に塗布剤を処理する。
- ③病虫害の発生に留意し、初期防除に努める。

Ⅲ 農作業事故防止

1人で作業する時は、事前に家族等に所在を知らせておき、農業機械の操作を行う際は、周囲の安全確認や、ヘルメット着用などの事故予防対策に留意する。また、思わぬトラブルが発生した場合には、まずエンジンを停止させる。

Ⅳ 農作業中の熱中症対策の更なる徹底

農作業中の熱中症による死亡事故の8割以上が7月から8月に集中しており、熱中症リスクの高い時期であることから、①こまめに水分をとる、②こまめに休憩をとる、③暑い時には無理をしないなど注意する。

Ⅴ 農薬の適正使用

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

農薬は、周辺作物に飛散しないよう適正に使用し、使用後は、栽培日誌、GAPチェックリストに忘れずに記帳し、出荷前の確認を徹底する。